

感謝

平成二十四年四月二十六日

平成二十四年五月二十五日

愛寿会・仁生園・第二仁生園へのご協力ありがとうございました。

いつもご協力をいただき心から感謝申し上げます。今後とも利用者の皆様に、よりご満足いただける施設運営を目指し役職員一体となって誠心誠意努めて参ります。

何卒、これからもご支援のほどを、また、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら、お礼状に替えさせていただきます。

ボランティア活動

- ・北杜市高根町 保坂 多枝子 様
- ・北杜市 うた仲間八ヶ岳 様
- ・北杜市 佐藤 英道 様

愛寿会後援会・終身会員の皆様(寄附申込年月日順)

- ・北杜市長坂町 小澤 澄夫 様
- ・北杜市小淵沢町 中山 賢一 様
- ・北杜市長坂町 西河原 清一 様
- ・北杜市武川町 三澤 喜代子 様
- ・甲斐市万才 井上 留美子 様
- ・三鷹市井の頭 山本 美根子 様
- ・大和市上草柳 原 弘光 様
- ・横浜市保土ヶ谷区 岡安 弘一 様
- ・新宿区大久保 平井 みかこ 様
- ・府中市栄町 板山 賢治 様
- ・北杜市大泉町 平井 静子 様
- ・北杜市小淵沢町 進藤 英三 様
- ・北杜市小淵沢町 金丸 一幸 様
- ・北杜市小淵沢町 金丸 幸子 様
- ・鎌倉市笛田 東塚 徹子 様
- ・南アルプス市曲輪田 芦沢 松子 様
- ・東村山市秋津町 櫻井 莊一 様
- ・北杜市小淵沢町 進藤 智一 様
- ・北杜市白州町 名取 富雄 様
- ・北杜市武川町 日向 勝雄 様
- ・北安曇郡松川村 浅原 恵美子 様

愛寿会後援会へのご協力(本年度四月二十六日)

- ・北杜市長坂町 小林 太夫 様
- ・北杜市長坂町 清水 洋平 様
- ・北杜市小淵沢町 麻生 彦彦 様
- ・北杜市小淵沢町 清水 勝男 様
- ・北杜市相生 務台 喜一郎 様
- ・北杜市長坂町 茅野 充造 様
- ・北杜市白州町 清水 健二 様
- ・北杜市白州町 鈴木 雅彦 様
- ・北杜市大泉町 小宮山 強志 様
- ・北杜市長坂町 八巻 都久美 様
- ・北杜市長坂町 浅川 元江 様
- ・北杜市長坂町 北原 久江 様
- ・北杜市小淵沢町 堀込 隆久 様
- ・北杜市長坂町 小堀 正隆 様
- ・北杜市長坂町 小澤 和正 様
- ・北杜市長坂町 宮澤 和一 様
- ・越谷市南荻島 小尾 治男 様
- ・福生市北田園 小白 砂光 様
- ・北杜市長坂町 小宮 治男 様
- ・北杜市長坂町 宮澤 和正 様
- ・北杜市長坂町 窪田 久史 様
- ・北杜市長坂町 窪田 久史 様
- ・北杜市長坂町 今井 勝良 様
- ・北杜市長坂町 堀内 輝弘 様
- ・北杜市長坂町 宮澤 輝弘 様
- ・北杜市長坂町 板山 恵美子 様
- ・北杜市長坂町 森田 民子 様
- ・北杜市長坂町 三井 泰子 様
- ・北杜市長坂町 植松 一雄 様
- ・北杜市長坂町 葉山 勝子 様
- ・北杜市長坂町 橘山 徹子 様
- ・北杜市長坂町 (有)坂本商事 森 坂本 様
- ・北杜市長坂町 奥石 英二 様
- ・北杜市長坂町 由井 正夫 様
- ・北杜市長坂町 山本 正明 様
- ・北杜市長坂町 杉並区松ノ木 坂本 正明 様
- ・北杜市長坂町 南アルプス市曲輪田 芦沢 勇治 様
- ・北杜市長坂町 秋山 宏子 様
- ・北杜市長坂町 内藤 紀宏 様
- ・北杜市長坂町 田中 勝海 様
- ・北杜市長坂町 守屋 克彦 様
- ・北杜市長坂町 小林 文彦 様
- ・北杜市長坂町 山本 文彦 様
- ・北杜市長坂町 伊藤 政彦 様
- ・北杜市長坂町 吉田 幸四 様
- ・北杜市長坂町 三井 美智子 様
- ・北杜市長坂町 (有)宮坂自動車 宮坂 清子 様
- ・北杜市長坂町 宮坂 澄子 様
- ・北杜市長坂町 川山 澄子 様
- ・北杜市長坂町 山本 澄子 様
- ・北杜市長坂町 今村 光一 様
- ・北杜市長坂町 朝日 清彦 様
- ・北杜市長坂町 大村 雅彦 様
- ・北杜市長坂町 小澤 征彦 様
- ・北杜市長坂町 林 泰彦 様
- ・北杜市長坂町 平井 泰彦 様
- ・北杜市長坂町 笹野 文彦 様
- ・北杜市長坂町 榎野 文彦 様
- ・北杜市長坂町 板山 長治 様
- ・北杜市長坂町 清水 敏藏 様
- ・北杜市長坂町 古屋 富藏 様
- ・北杜市長坂町 伊藤 恵美 様
- ・北杜市長坂町 小宮山 進毅 様
- ・北杜市長坂町 清水 毅毅 様
- ・北杜市長坂町 小林 稔毅 様
- ・北杜市長坂町 坂本 稔毅 様
- ・北杜市長坂町 小本 稔毅 様
- ・北杜市長坂町 小林 稔毅 様
- ・北杜市長坂町 浅川 一里 様
- ・北杜市長坂町 新生活会社サービス 新川 紀司 様
- ・北杜市長坂町 瀬戸 義英 様
- ・北杜市長坂町 北原 義忠 様
- ・北杜市長坂町 丸茂 義直 様
- ・北杜市長坂町 内田 英子 様

愛寿会 たより

6月号
第156号
平成24年
6月1日発行



5月23日(水)午前10時から理事長講話がありました。さまざまな課題を抱える仁生園・第二仁生園ですがみんなで力を合わせ取り組んでいこうと決意を新たにしました。

「それ古人曰く推車同舟の喩があるではないか」
みんなで力を合わせ より利用者皆様のために！

たとえ

五月二十三日(水)小澤澄夫
理事長による職員への講話から

五月二十一日(月)に「決算理事会」が終わりました。二十四年度の課題解決に向かってみんなで力を合わせよう…との趣旨から開かれた講話の会…以下はその一端です。

私が折々に皆さんにお願いしている言葉に「小事を疎(おろそ)かにする者は必ず大事が疎かになる」というのがあります。「おはよう」、「ありがとう」、「どうかしましたか」という、そこはかとないたたかきこそ大事。また清掃、整理整頓、身だしなみ…こういったことが何よりも大事。こうした一見小さなことを粗略にしていくから立派な理論を並べてみても決して人は動かない…というほどの意味と解していただきたいと思えます。

この言葉を改めて心に刻み直して欲しいと考えます。

今回は私が金言とするもう一つの言葉「推車同舟」について申し上げます。

元の時代に張養浩という偉大な政治家がいました。著書の一つ「為政三部書」の中に「分謗」なる章があります。その中に「それ古人曰く推車同舟の喩があるではないか」という文言が出てきます。

その大意はこうです。

もし大勢の人を乗せた牛車が急坂に差しかかり車を曳く牛は息も絶え絶え、ムチをあてられつ放しというとき、乗っているみんなは黙って乗っているか。我先にとび降り牛車を押すに決まっています。

もしまた、大きな湖水を舟で渡っているとき子どもが転落する。そのとき同舟の人はどうするか。我先にと湖にとびこみ、溺れんとする子を助けるに違いない。

それ古人曰く、「推車同舟の喩があるではないか。」このことは血の通っている人間であれば当然のことで、貧富、貴賤(きせん)、老若を問わないもの。近隣同士、あるいは同じ職場の者、先輩、同僚、後輩、すべてこうあるべきもの。

たまたま同じ職場に席を置きながら、彼進み我退き、我論するとき彼馬耳東風というようなことで何ができよう筈もない。常に「推車同舟」苦楽を分かちつ事に当たることこそ肝要…。

例えば誰かが仕事に失敗したとき「これは長たる私の全責任…」と言えば必ず次たるものが「いやいや私の責任です」と足を一步踏み出す。すると、三席が「いやいや私の責任…」と声を発する。

本当の秩序、やる気はこういうところから生まれるのである。

おおよそ、以上の趣旨に立つ一文です。数十年前に為政三部書に接し、以後何回も読み返し、教えられてばかりでした。

愛寿会一〇〇人の職員、「かくありたい」と思いつつお話し申し上げた次第です。本年取り組もうとしている諸課題については、愛寿会だより二月号に詳しく記してあります。

これを再読、三読、そして、只今申し上げます心構えを忘れず日々精進されますよう心から願って止みません。その精進が間違はなく利用者皆様のご満足につながっていくのですから…。

本年度第二回目の評議員会・理事会が開かれました

平成二十三年度事業報告及び決算報告が認定されました

五月二十一日（月）午後一時から本年度第二回目の評議員会及び理事会が開かれました。平成二十三年度の事業報告及び決算報告が主な内容の会議でした。入江薫、坂本ちづ子監査委員による監査報告も「事務事業とも適正に執行されている」とされました。以下に会議のあらましを記します。

事業報告

次の七項目を中心に、仁生園の園長及び副園長、第二仁生園園長、法人の事務局長、事務部長、企画部長から一年間の事業内容について詳しく報告しました。

一 仁生園・第二仁生園の非常電源の強化

昨年の東日本大震災時の経験を踏まえ、仁生園二号館及び第二仁生園の非常電源装置を強化した。強化後両園とも避難訓練を実施したところ非常時の介護、避難誘導に支障がないことが確認されたこと。

なお、第二仁生園ではスプリンクラー設備についても併せて増設を図ったこと。

二 両園の給食業務の委託先をプロポーザル方式による競争により選定

給食業務の在り方について一昨年来プロジェクトチームを編成検討を重ねてきたこと。

その結論を踏まえ昨年早々からプロポーザル方式により委託先の検討を続けてきたこと。

結果、理事会の審議を経て引き続き日清医療食品株式会社へ委託することに決定したこと。

この競争の結果、行事食、季節食の回数が増加するなどその内容が相当改善されたばかりでなく、管理費も百余万円節減されるなどの効果があったこと。

三 先任職員による介護福祉士資格取得のための施設内事前講習会の実施

質の高い施設であるためには介護福祉士の占有率を高めることが必須。そのため両園の受験者を



対象に、先任職員を指導役として都合三十六回の事前講習会及び四回の模擬試験を行い合格率のアップを目指した

こと。その結果受験者十七名中十名合格、その率六十パーセントの好成績をおさめたこと。

四 両園の介護職員全員が痰の吸引に関する技術講習会を受講

昨年法令が改正され、一定の講習を終えた介護職員に限り痰の吸引が可能となったことに伴い、愛寿会では全介護職員がこの資格取得を目指すことになりそれを果たすことができたこと。

五 仁生園十の研究委員会、第二仁生園七つの研究委員会による研究集録の発行

第四号を発行することができたこと。年々レベルアップしていることが認められること。

六 仁生園一号館に最新鋭特殊浴槽増設

厚生労働省の補助率二分の一の奨励金を受け、仁生園一号館に最新鋭の特殊浴槽を導入したところ、自在性が高いため利用者から好評を博しているばかりでなく介護職員の労力軽減に益するところ多大であること。

七 第二仁生園に百パーセント補助金で福祉車両整備

第二仁生園の利用者は重度の障害者につき病院への往復が頻繁。昨年山梨県障害者自立支援対策整備事業補助金の交付を得たので車椅子でよし、ストレッチャーでよしの最新鋭車を購入したこと。

決算報告

法人事務局長が説明しました。その要点は以下のとおりです。

一 基幹収入前年度比二パーセントの増

介護保険収入と障害者自立支援収入の合計額は七億七百余万円で、前年度比二パーセントの増であり職員の工夫努力のあとがうかがえること。

二 人件費は四億八千九百余万円で基幹収入に対する割合は六十三パーセントとなっているもの、国による緊急雇用事業による人件費、臨時的な賞与を除けば健全性は維持されていると認められること。

三 貸借対照表及び財産目録等から判断しても健全性は維持されていると認められること。

野点

例年より春の訪れが遅いのではないかと、五月七日(月)に、野点の席を用意しました。染井吉野は散ってしまいました。八重桜が咲き始めた中庭で、和服の職員のお点前と和菓子を楽しむました。



春の暖かな日差しと、ゆつくりとした時間を楽しみました。日頃忙しく跳びまわっている職員の和服姿に、入所者の皆様はニコニコで、話に花が咲きました。

第一 仁 生 園

五月二十九日(火)、バーベキューをしました。晴天にも恵まれ、備長炭で焼くバーベキューに食欲倍増!でした。

第二仁生園の周りも日中暑くなってきました。夏に向けてこれから、「そば打ち体験」や「流しそうめん」など夏ならではの日中活動を予定しております。



入所者のつどい

利用者様の生の声を伺いたいと、三ヶ月に一度くらいの割合で、おしゃべり会として「入所者のつどい」を開催しています。

野点やお花見ドライブの感想が聞かれました。寿美浩(すみひろ)会の皆様による懐かしい歌謡曲に合わせたの踊りがとても好評でした。



山梨県遊技業協同組合(理事長 大森武正様)よりグループホームやすらぎに車椅子をご寄贈頂きました

グループホームの利用者の皆様方からも「一年一日中活動や移動が思うに任せない」との声が聞かれます。

それだけに「今回ご寄贈いただいた車椅子により、自立した生活が長く続けられる」と皆様大喜びです。有難うございました。



企画部長に就任して

石原公興



本年二月一日、愛寿会法人本部企画部長の辞令を頂戴しました。その際理事長から三点の指示を受けました。

一つ目は、四月一日から介護報酬及び障害者支援費が実質的に二・三%程度引き下げられる。収入あつての施設運営である。新年度を待たず改定による影響調査に着手し、加算制度の活用等によって引き下げ分のカバー策を講ずること。

二つ目は、高齢者施設は競争時代に入っている。職員の質を高め、ひいて施設のレベルアップを図らなと取り残される。平成二十三年度の経験を踏まえ、介護福祉士資格取得のための施設内研修を年間二十五回程度実施すること。

三つ目は、介護報酬及び障害者支援費の合算額の六十二%を上限に、かつ、極力下に厚くを基本に職員の給与制度を検討すること。

おおよそ以上ですが、何れも簡単に対応できないことばかりで頭が痛くなります。

たまたま私は、昨年一年間理事長付きリーダーとしてご指導を頂きました。

理事長が再々口々にされていることの一つに「今日新卒で就職した職員が六十五歳まで何の心配もなく働ける職場でなければならぬ」というのがあります。「長期安定経営を図るのが経営者の義務」といわれることもあります。意図されているところは同じだと思います。

不敏な私ではありますが、精一杯努力して理事長の意を体して参りたいと考えます。

先輩、同僚、後輩の諸氏の何分のご指導とご助力を心からお願い申し上げます。